

受入先	南九州市茶業振興会
役職	
隊員氏名	窪 拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和3年3月（着任0年2カ月目）
主な活動	1 高収益作物時期作支援の書類最終確認作業 2 オンライン新茶イベントの企画と学生PJ『Tea Labo』のご報告 3 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談

1. 高収益作物時期作支援の書類最終確認作業

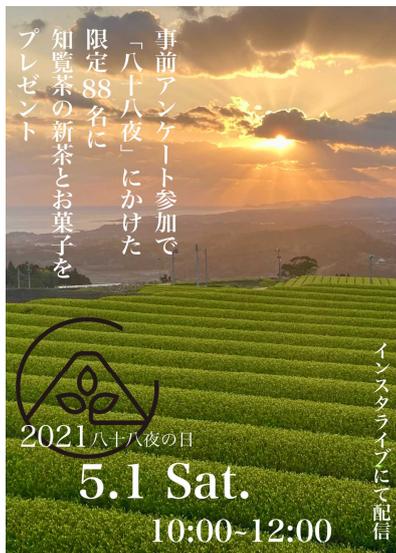
昨年から引き続き進めていた高収益時期作交付金の書類作業において、当月ようやく取組実施者の方々に着金まで完了することができました。

時期作交付金という名目のもと昨年から動いておりましたが、既に次月からは茶業最盛期となる「一番茶（新茶）」が始まり、当初の進行予定よりも大幅に遅れてしまった点、補助事業の進行について国も含めて大きな反省点となりました。着金まで完了したものの、ご提出いただいた各種資料整理が引き続き残っておりますので、今後も進めていきたいと思いません。



本年は、過去最速と謳われるほど一番茶の摘採が早い年となっており、良いお茶が販売できることを切に願っています。

2. オンライン新茶イベントの企画と学生PJ『Tea Labo』のご報告



例年南九州市茶業振興会及び茶業課で実施されていたオフラインイベントは、本年は「新たな生活様式」を取り入れたオンライン参加型イベントにシフトし、今までのプロジェクト完結型の単発イベントから、通年で知覧茶を発信する動きに変え、計画を進めております。

直近では、茶業最盛期となる「新茶」シーズンに何かできないかの提案から採用に繋がった、新茶イベントに向けインスタやFBなどのSNSを活用した告知、集客、情報発信を実施中です。

イベント名:

夏も近づく八十八夜 知覧茶 新茶お披露目会

開催日時:

2021年5月1日(土) 八十八夜の日

午前 10:00~12:00

配信:

Instagram を用いたオンライン開催

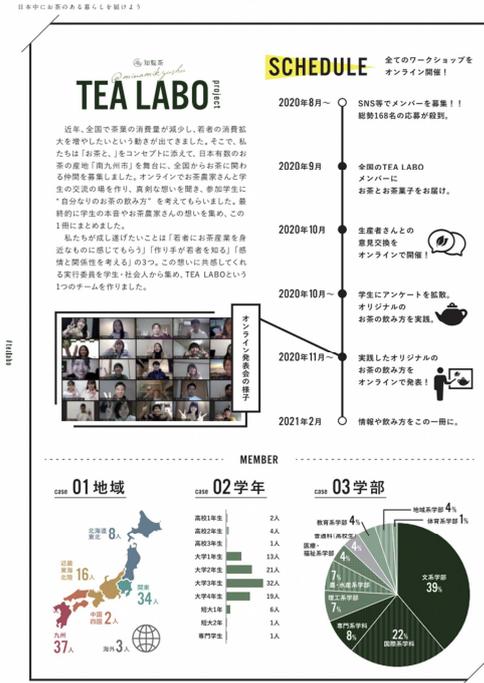
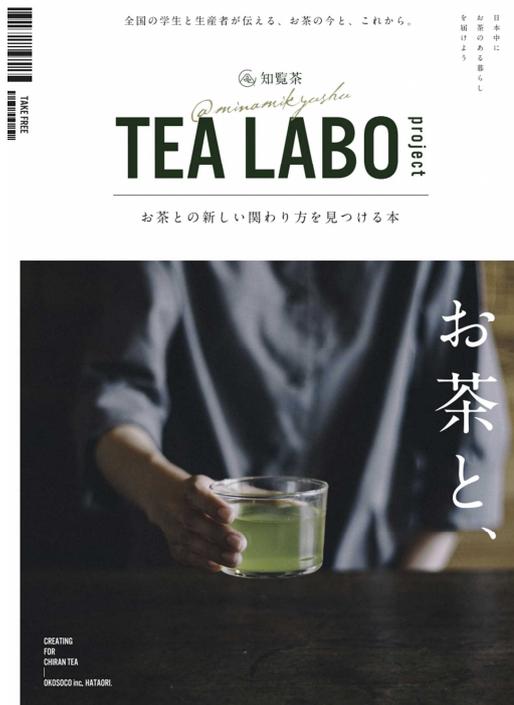
また、昨年から活動していた「若者の消費拡大」事業の「TEA LABO (ティーラボ)」が全てのスケジュールを終え、当月冊子が無事完成し、県内外の参加メンバーや関係各所、全国の主要店舗等に配布のご案内を実施しました。

全国の学生メンバーが主体となり、オンラインでお茶農家さんと繋がり南九州市の現場から発信される「生の声」を感じてもらい、参加学生メンバーに“自分なりのお茶の飲み方”を考えてもらうといった内容にて、非常に充実したプロジェクトであったと感じております。

茶業各所からでてくる「家庭に急須がないからお茶が売れない」というのは要因の一つではありますが、それよりもお茶を必要としている若者を中心とした新しい層の方々に「届いていない」、もしくは「届けられていない」という事が大きな要因ではないのかと強く感じております。

プロジェクトの主要メンバーで振り返りを行った際、学生を卒業した後も、継続してお茶が近くにある暮らしをしていきたいというお声を多くいただいており、今後の展開としては、学生プロジェクトという枠を超え、社会人の方々も心身の負担なく参加できるプロジェクトとなればよいなと考えているところです。

この度ご参加並びにご協力いただいた関係各所の皆様にお礼申し上げます。



3. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談



先月に引き続き、茶業課の方々と共に知覧茶ブランディングの為の商品開発や、外部企業との連携をするための商談を実施しております。

知覧茶をより身近に、美味しく、簡単に手にとってもらえるように、市場では珍しいドリップ式の商品を消費者に試していただく取組や、コンビニで購入できるコーヒーの様な感覚で飲むことができる、リーフティークップの商品を採用をし、当月開催された総代会・振興大会でお披露目となりました。

私自身、過去コーヒーに携わる仕事をしてきた事があり、身近な飲み物である「お茶」と「コーヒー」の比較をする話題が出てきた際、お茶には「手軽さ」や「産地・品種を活かしたブランディング」が弱いと感じ、一種の「古臭い印象」というのも消費拡大をする上では大きな足枷になっているのではないかと考えています。

あくまで私感になってはいますが、お茶の飲み方は多種多様でいいと感じています。

その中で、カジュアルに飲めるお茶から、本格的にお茶を飲むなどシーンを使い分け、ライフスタイルの中に「お茶」という軸ができればいいなと思うところです。

また、上記で記載しました新茶イベント用で、知覧茶の「新茶」を使ったお菓子（お茶うけ）を、地元のカフェにご協力いただき作っていただき、詳細は次月の新茶イベント報告にて共有させていただきます。

以上、簡単ではございますが当月の報告と致します。